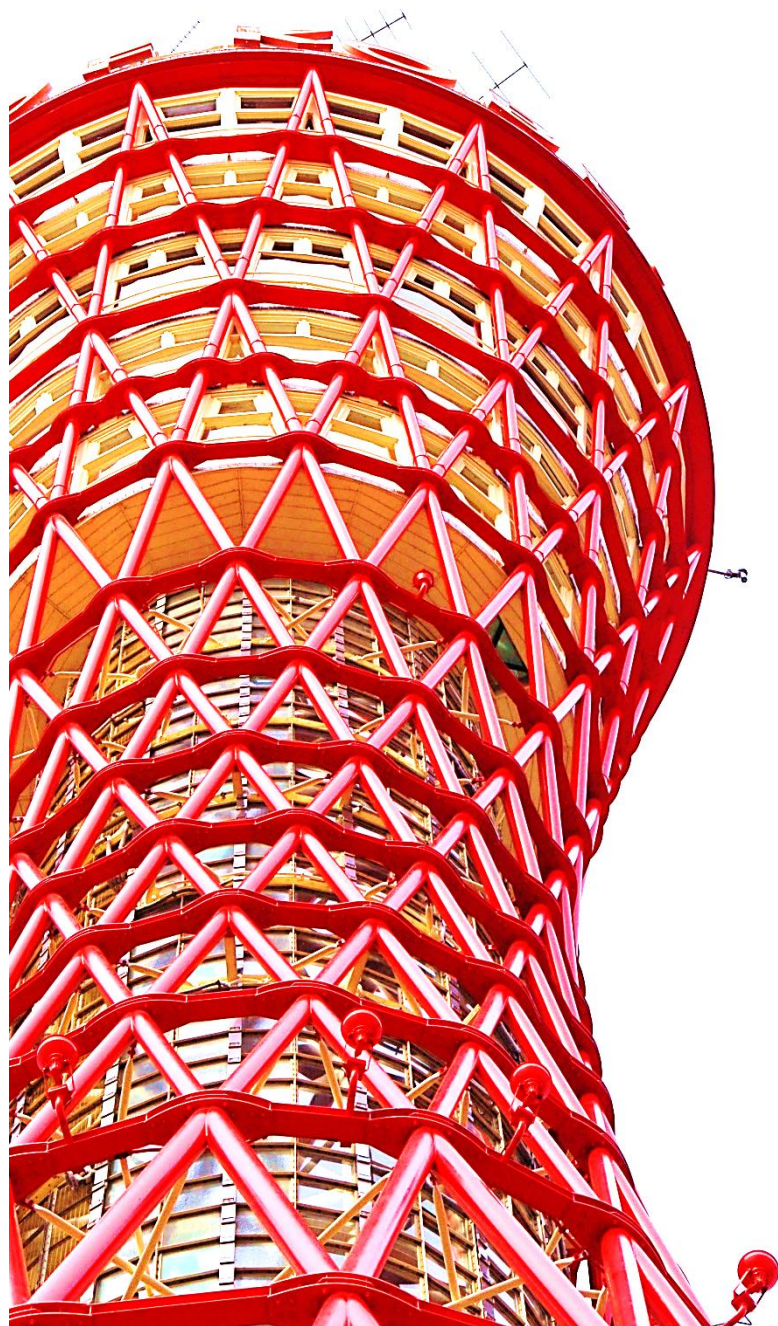


ぱねる 42



平成24年4月

社団法人 兵庫県建築士会神戸支部

支部長挨拶



会員の皆様には建築士会神戸支部にご協力頂き、厚くお礼申し上げます。

神戸支部は今年創立 50 周年を迎え、支部発足以来初めて単独で支部事務所を開設しました。多くの会員の皆様が新しい事務所で、研修会・講演会等広く利用して頂ける事を望んでいます。又、市民参画型のセミナー開催等社会に開かれた事務所を目指します。

私個人としては最近、特別養護老人ホームと障害者福祉施設の設計に携わりました。同時期、足を骨折し松葉づえ生活を余儀なくされる事となり、あらためてハートビル法やユニバーサルデザインの重要性を感じました。

「老いとは日頃普通に出来ていた事が一つずつ出来なくなる事。」その言葉を考え、安全で安心な建物を設計して行こうと思います。

平成 23 年度、神戸支部では総務委員会・研修委員会・すまいスクール委員会・青年部会が年間を通して事業を多数企画しました。年 2 回バスで行く見学会、法規講習会、体験型勉強会、市民参画セミナー、ホームページ運営等多彩な事業を展開し、成果を上げました。

新事務所のスタートとなる新しい一年、事業の企画に興味のある若い方は、神戸支部の運営に参加し、是非一緒にやりましょう。

(井上 芳朗)

平成 23・24 年度役員

支部長	井上 芳朗
副支部長	戎 孝之 田中 義之 長谷川 清 前川 象二郎 宗政 安俊
理 事	荒川 直樹 大塚 正 榎本 光展 木下 功 木山 正典 久宝 弘幸 湖亀 一登 佐伯 亮太 佐々木 博司 佐々木 康行 常俊 桂子 常峰 博文 日高 俊二 前田 佐枝 松村 哲也 三島 悦子 安水 正 山口 悟 山本 幸治
監 事	加藤 恒郎 水谷 忠清
顧問	武野 朋子

※_____は常任理事

総 務 委 員 会

総務委員会では各委員会の事業の調整、年度予算案の作成、会計のほか、広報活動としてホームページの運用なども行っています。

また、今年度は神戸支部事務所移転の準備や部創立 50 周年式典の準備を行って参りました。さらに 24 年度は建築士会公益法人化に備え準備を行う事となります。

今後とも支部事業が円滑に行えるようメンバー全員で頑張っていきたいと思います。

【23 年度メンバー】

担当副支部長	田中 義之
委 員 長	久宝 弘幸
副委員長	湖亀 一登
委 員	赤澤 祥語
	堀川美智代
	松村 哲也
	三島 悦子
	宮本 佳尚
	宗政 安俊



23 年度通常総会の様子



神戸支部新事務所内の様子

平成 23 年度 神戸市立医療センター新中央市民病院 施設見学会 事業報告

「神戸市立医療センター 新中央市民病院」が7月の開院に向けて整備が進められている中、地方独立行政法人 神戸市民病院機構様のご好意により、多忙な中、施設の説明とともに見学をさせていただく貴重な機会を得ることができました。

当日は、さまざまなスタッフが準備を行っているところ、開院をしてからは見ることができない手術室やICUなどを中心に、また、最新鋭の医療機器の説明も交えて、非常に興味深く見学することができました。そして、一昨年の事業で行った当施設の施工中の現場見学もあわせて参加していただいた方には、その時の説明や見たものとを比較をしながら、より施設を深く見学でき、理解できたのではないのでしょうか。病室では、個々のベッドに外部への開口部を割り当てた4人部屋という、すこしかわったレイアウトなどもあり、新たな試みも多くありました。

開催日時： 2011年6月13日（月）14:00～16:00

開催場所： 神戸市立医療センター 新中央市民病院
神戸市中央区港島南町2丁目1-1
（ポートライナー「先端医療センター前駅」
下車、北側へ徒歩3分）

内 容： 施設見学

参加費： 会員 500円 非会員 1,000円

参加者： 会員 20名・非会員 10名（合計 31名）



神戸支部 50 周年記念事業

平成 23 年度「歴史と環境」を学ぶ会

開催日時： 平成 23 年 6 月 26 日（土）

集合 神戸市役所北 花時計前 解散 三ノ宮駅東 ラウンドワン前

見学場所： 日吉大社

山王鳥居・西本宮・宇佐宮・白山宮・東本宮・樹下宮・牛尾宮・三宮宮
園城寺(三井寺)

光浄院客殿(非公開)・勸学院客殿(非公開)・仁王門・金堂・鐘桜(三井の
晩鐘)・一切経蔵・唐院(三重塔)・観音堂・新羅善神堂

参加費： 会員－5,000 円 非会員－7,000 円

参加者： 35 名（会員 31 名、非会員 2 名、事務局 2 名）

6 月 26 日（土）に、毎年恒例の「歴史と環境」を学ぶ会を開催しました。

今年は、昨年に引き続き、滋賀県の寺院の日吉大社と園城寺(三井寺)へ行ってきました。

まず始め午前中に、日吉大社を訪れました。受付の所から、住職さんの案内により、その場その場で、いろいろな説明を受けながら、広い境内をゆつくりと歩いて、散策をしました。

午後からは、園城寺(三井寺)を訪れました。園城寺(三井寺)では始めに、非公開の勸学院客殿と光浄院客殿にそれぞれ入らせて頂き、住職による説明を受けました。そしてその後、間近に華麗な襖絵や豪快な床貼付絵を鑑賞させて貰いました。それから、境内を各自自由に散策をし、帰路につきました。

尚、梅雨時期であつたにも関わらず、大変良い天候にも恵まれた見学会となりました（ちなみに、下見の時は大雨でした）。その上珍しく、午前中に一ヶ寺、午後から一ヶ寺と、時間にゆとりを持たせた見学会としましたので、じっくりと見学出来たのではなかったでしょうか。

また、多くの参加者に参加して頂き心から感謝致します。

さて今回は、私の息子(小学 5 年生)も参加させて頂きました。熱心に？ 説明を聞いたり、メモを取ったりしていました。そして後日その事を、自由研究として学校に発表したそうです。ここに、その一部(感想)を記載させて頂きました。

♪♪ 感想 ♪♪

日吉大社に行って、お猿さんを見たり、さわがにをさわったりして楽しかったです。一番おどろいたのは、猿の霊石です。本当にしゃがみこんだ猿みたいだったから、とてもびっくりしました。雌榊(めなぎ)にさわって、お母さんの幸せをお父さんといっしょに祈りました。

三井寺では、時間がなく、全部見れなかったけれど、ふだん入れない所に入れてうれしかったです。クジャクがいて、でも羽を広げてくれなかったのも、残念でした。

おみやげを買ったり、びわ湖が見れてうれしかったです。日吉大社と三井寺に行つて、はく力のある物を見れて、歴史に少し興味を持ちました。

行ってよかったです！(*^。^*)



平成 23 年度 第 1 回法規講習会事業報告

平成 23 年度の第 1 回法規講習会として、10 月の改正によりサービス付高齢者専用住宅が創設された「高齢者住まい法」ならびに神戸市におけるすまいの環境表示に関わる条例、都市計画、総合設計制度の見直し、サービス付高齢者専用住宅創設に関連する消防関係条例のみなおし等についてご説明をいただきました。厳寒の中でしたが 94 名の方にご参加いただきました。

開催日時： 平成 24 年 1 月 16 日（月） 13：30～16：50

開催場所： 兵庫県私学会館 4 階大ホール

参加者： 94 名（会員 89 名、会員外 5 名）

受講料： 建築士会会員・事務所協会会員は 2500 円、会員外 3500 円

講演内容

①「高齢者の居住の安定確保に関する法律改正について」13:35～14:25(50 分)

講師：神戸市都市計画総局住宅部住宅政策課主査 上村 竜生様

②「神戸市建築物等における環境配慮の推進に関する条例について」14:25～14:55(30 分)

講師：神戸市都市計画総局建築指導部建築安全課 指導係長 鷺尾 真弓様

③「用途地域・高度地区の見直しについて」15:10～15:40(30 分)

講師：神戸市都市計画総局計画部計画課 土地利用係長 湯田 慶昭様

④「神戸市総合設計制度許可取扱要領の見直しについて」15:40～16:10(30 分)

講師：神戸市都市計画総局建築指導部建築安全課 整備係長 上田 真己様

⑤「消防法の最近の動向について」16:10～16:40(30 分)

講師：神戸市消防局予防部建築危険物課建築係長 宮内 健様

共 催：（社）兵庫県建築士事務所協会神戸支部



平成 23 年度 神戸支部 50 周年記念企画 神戸ポートタワー講演会事業報告

去る平成 24 年 3 月 10 日、神戸支部 50 周年を記念し、着工から 50 年を迎えた神戸ポートタワーをテーマとした講演、及び見学会を行いました。

企画は講演会と見学会の 2 部構成になっており、講演会は会場を TENTEN、講師に梅宮弘光先生を迎え、「神戸ポートタワーとその時代—鋼鉄の美女の半世紀」と題した内容で講演いただいた後、ポートタワーの見学を行いました。

講師の梅宮弘光先生は、神戸大学発達科学部教授で近代建築史の研究者であり、ポートタワーをはじめ、神戸港にまつわるさまざまな建築を研究されています。また、建築雑誌の編集にも携わっておられたので、講演の内容もポートタワーの建設経緯や神戸港の歴史にはじまり、設計担当者のインタビュー記録やポートタワーが登場する映画の映像資料など、多彩な内容でした。

また、会場の TENTEN は、旧国産上屋 1,2 号という港湾倉庫を改造して、現在ギャラリーや多目的ホールとして使用している施設です。神戸の港の雰囲気を感じられる魅力的な会場であったかと思います。

ポートタワーの見学は、建築士会の見学ということで神戸港振興協会の方に應對に來られて、建築専門家向けの資料配布と解説までしていただきました。ポートタワーには初めて上ったという参加者の方もおられ、大変なごやいだ有意義な見学会となりました。

厳寒のなか、多くの参加者にご参加いただき、また講師の梅宮先生、講演会場を運営する NPO 神戸グランドアンカーの方々、神戸港振興協会の方のご協力で神戸支部の 50 周年に相応しい企画になったこと、心より感謝いたします。

開催日時：平成 24 年 3 月 10 日（土） 14：00～16：30

開催場所：TEN×TEN(旧国産 1、2 号上屋) 神戸市中央区波止場町 6-5

講演会の後、ポートタワーへ移動、見学会を行いました。

講師：梅宮弘光（神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授）

神戸ポートタワーとその時代—「鋼鉄の美女」の半世紀

参加料：会員 1500 円、会員外 2000 円

参加者：21 名（会員 20 名、非会員 1 名）



すまいスクール委員会 (旧情報企画委員会)

★ 建築士と市民をつなぐ

当委員会は平成23年度より『すまいスクール委員会』と改名しました。設立以来、建築士と市民の交流を目的に活動を行っています。主に神戸市すまいの安心支援センター（すまいるネット）と協賛した事業を行っており、行政と連携した事業を通しての人付き合いがあるのが特徴です。

“建築士と考えるすまいスクール”と名うって、すまいを題材にした講習会、見学会、ワークショップなどを行いました。

建築士として人脈の幅を広げたいと思っている方は一度、委員会に来てみませんか。たくさんの方の参加をお待ちしています。

★ 平成22年度委員会メンバー

担当副支部長：長谷川 清

委員長：日高俊二

副委員長：木下 功、三島悦子

委員：木山正典、常俊圭子、高橋眞治、
金岡正一、毛利康人、瀬戸口 茂
協力委員：水谷忠清、野崎瑠美、田中嘉之
山際洋子

★新入委員の声

< 人の和を広げる >

私は昨年2月に独立開業し、4月に建築士会に入会しました。一級建築士の資格を取得して、約15年が経過した後でした。

総会後の懇親会場で支部長をはじめ色々な方を紹介して頂き、委員会へのお誘いを受けました。入会しているだけでは意味がないので、勉強のため各委員会に出席させて頂きました。

建築業界の中でも様々な分野があり、各自それぞれがその分野の専門職です。自分の知識不足を専門の方々にご指導頂き、実践の仕事に活かしています。

また、すまいスクール委員会においては その知識を市民の方々に提供し、建築に興味を持てる人々とふれあい、一般社会における建築関

連の認識を高める事に役立っていると思います。

今後、日本人の少子高齢化による「超高齢社会」、地震国における周期的な「震災の発生」に対して、日本特有の問題として私たち建築関係者が問題解決をしていかなければなりません。建築専門職同士の和、一般市民との和が 諸問題を解決し、その手段を世間に広げる最短の方法かと思います。今後とも、未来の日本のため建築士会等の事業を通して、さらに人との和が広がることを願います。(毛利康人)

<今年度を振り返り>

平成23年度は建築士と考えるすまいスクール事業 長く住み続けられるすまい6 土壁塗りに挑戦！「我が家に活かす壁塗り体験」を実施しました。兵庫区の古民家を使って実際に土壁塗りを体験していただきました。

夏休み親子セミナーは「驚き・発見！ねん土でつくろう夢の家」というタイトルにて小学生親子が粘土で思い思いの家を作成していただきました。また、(社)兵庫県建築士会神戸支部50周年記念事業・建築たうんウォッチング「北野町の教会建築めぐり」と題して神戸を代表する観光スポット「北野異人館街」にある個性豊かな世界の教会・寺院建築物の数々を巡ると共に、道中の見どころも案内しました。どの事業も市民の皆様とふれあう機会ができ、楽しい時間を過ごせました。これは委員会のメンバーの皆様、神戸市すまいの安心支援センター“すまいるネット”の皆様、神戸支部の皆様の協力とご支援により行うことができました。厚く御礼申し上げます。

これからも市民と建築士を繋ぐ事業を行い、建築の素晴らしさや、活動の楽しさを皆様と共有し、大人から子供まで楽しめる事業を行ってゆきたいと思います。今後もより一層、皆様のご指導・ご支援をお願い致します。

(日高 俊二)



土壁塗りに挑戦！～我が家に活かす壁塗り体験～ 報告書

健康やエコロジーといった観点から、一般の方々にも土壁や珪藻土などを使った塗り壁仕上げが見直されてきました。そこで、左官の良さをより理解して頂くために、壁塗り体験のワークショップを開催いたしました。土の暖かさや、素材の持っている質感を、直接手で触れて感じていただけたことでしょうか。これを機に暮らしの中に取り入れていただきたいと思います。

開催日：平成 23 年 6 月 4 日（土）13:00～17:00 天候 晴れ

会場：神戸市兵庫区内のM家

参加者：一般市民 14 名、建築士会会員 2 名

技術指導：渋谷工芸 2 名（左官職人）

スタッフ：兵庫県建築士会神戸支部すまいスクール委員会 7 名、すまいるネット 3 名

協力：四国化成工業（株）1 名

1. 昭和の家とリフォームの話

会場を提供いただいたM様より、この建物の変遷や思い出をお話いただきました。また、この建物を今後どのようにして使っていきたいかを熱く語っていただきました。

設計者からは、この建物の具体的なリフォーム内容と耐震改修について、さらに他の事例についても、図面や写真を活用しての説明がありました。



2. 土壁の話

当すまいスクール委員会委員より、土壁の基礎知識と魅力について、また土壁についてもいかに様々な仕上げがあるのかということ、多くの写真と共に説明しました。

3. 土壁塗り体験

まず始めに、材料の練り混ぜから行い、参加者にも手伝って頂きました。



あらかじめ剥がしておいた壁土につなぎ材を加えたものを再利用して荒壁を塗ります。まずは、左官職人さんに荒壁の塗り付けの手本を見せていただき、その職人技の見事さに一同感嘆の声を上げました。その後参加者の皆様にも体験をしていただきました。



次に珪藻土の壁塗りの手本を女性の左官職人さんに見せていただき、4グループに分かれて仕上げ塗りの体験をしてもらいました。最初は、慣れない手つきでぎこちなかったのですが、職人さんの丁寧で親切な指導により、少しずつ手つきが良くなっていきました。



そして塗り終わった壁を眺めながら、参加者に壁塗り体験の感想を述べてもらいました。その中には難しかったという感想から、自分では是非やってみたいという積極的な意見も出ました。左官技法についても、さらに突っ込んだ話をさせていただきとても勉強になりました。

最後になりましたが、場所を提供していただきましたM様、技術指導をしていただきました渋谷工芸様、事前準備から当日の運営までご協力いただきましたすまいるネット及び四国化成工業（株）の方々に御礼申し上げます。



夏休み親子セミナー

「驚き・発見！ ねん土でつくろう夢の家」 報告

開催日時：平成23年 8月 6日（土） 13:30 ～ 17:00
開催場所：神戸市中央区雲井通5-3-1サンパル5階 すまいるネットセミナールーム
参加費：500円(材料費)
参加人数：子供9名、保護者8名、計17名
スタッフ11名（すまいスクール委員会8名、すまいるネット3名）
講師：埋蔵文化財センター 山口学芸員
兵庫県建築士会神戸支部すまいスクール委員会 山際、横田
内容：1) 第1部 / 講義「縄文・弥生時代の生活とすまい」
2) 第2部 / すまいに関するクイズと実験
3) 第3部 / 「夢の家」制作・作品発表 他

兵庫県建築士会神戸支部すまいスクール委員会では、2008年から「夏休み」期間中の親子参加事業(すまいるネット委託事業)を毎年開催しており、今年も内容に趣向を凝らし、楽しくてためになる事業となりました。
以下に当日の様子をお伝えします。

第1部

埋蔵文化財センター山口学芸員に、縄文時代や弥生時代のすまいについて、スライドを使ってわかりやすく説明をしていただきました。



土・木・草といった身近な材料を用いてすまいをつくり、土の特性を最大限に活かした生活をしていた昔の人の知恵や、すまいの進化・発展など教えていただきました。



山口学芸員の指導のもと、火をおこす体験をしました。摩擦により煙がたち、板が焦げるところまでですが、子供たち自身が実際に行なうことで興味深い経験になったと思います。

第2部

すまいに関するクイズを出題し、子供たちに答えてもらいました。また、この後に皆さんに粘土で「夢の家」づくりをしてもらうこともあり、世界各地の土の家（動物の住処も含め）を紹介しました。夏涼しく、冬暖かい土の家の特徴とともに、土は再利用できることなども勉強しました。



続いて、梁構造の知識につながる「たわみ」の実験を行ないました。同じ長さの細長い板に同じ重さのおもりを載せているのに、条件の違いでたわみ方が異なるのを、皆真剣な顔で見তেくれていました。



第3部

お待ちかねの「夢の家」づくりです。子供達だけでなく、保護者の方々にも挑戦していただきました。今年は、乾きが速く作品に着色できる紙粘土と、オプションとして埴輪用粘土も用意しました。



木の葉・枝・貝殻などの材料を使って、各自が自由な発想で作成しました。形成後には絵の具を使って、粘土だけでなく木の葉や貝殻にも自分たちの好きな色を着色し、それぞれに個性のあふれる「夢の家」が完成しました。



完成後、貫頭衣(弥生時代の服)を着て、それぞれの作品とともに記念撮影を行ないました。その写真を「夢の家」博士認定証に貼り付け、授与しました。

できあがった作品は一人ずつ皆さんの前で披露し、どんなテーマで作成したのか、どんなところを工夫したのかを発表してもらいました。カブトムシの家・貝殻の家・インドの家など、ユニークなテーマも多くありました。終了後のアンケートでは子供達全員から「とても楽しかった」という感想を得ることができ、夏休みのいい思い出になったことと思います。



今回の企画を通して、子供たちに住まいの歴史と家をつくる素材の特徴・文化、昔の人の知恵などに興味をもってもらい、それぞれが創意工夫して「夢の家」をつくり上げる事で、自分自身の個性を活かす機会になったと思います。この経験が彼らの心に残り、有意義な未来を築くことを期待します。

最後になりましたが、ご講義いただきました埋蔵文化財センターの学芸員山口様、会場を提供していただいた上に事前の準備から当日の運営に至るまでご協力いただいたすまいるネットの皆さんに厚くお礼申し上げます。

「北野町の教会建築めぐり」事業報告

まち歩きを通して、建築士と交流しながら建築への理解を深めていただくことを目的とした建築たうんウォッチング。今回は、神戸を代表する観光スポット「北野異人館街」にある個性豊かな世界の教会・寺院めぐりを行いました。

開催日：平成 24 年 3 月 17 日（土） 13:00～17:00

開催場所：神戸北野異人館街及びその周辺

参加者：50 名（一般市民 47 名、建築士会会員 3 名）

語り部：すまいスクール委員会委員

前日の予報は雨。建物の外観を見ることもまち歩きの楽しみの 1 つ。天候が心配でしたが、当日は、午前中に雨が上がってくれました。また、雨予報から当日キャンセルが多くなることも予想されましたが、キャンセルは 3 名のみと、参加意欲の高さを感じられました。

日本基督教団神戸栄光教会

12 時 45 分に教会前にて受付を開始。すでに多数来られており、すぐにほとんどの参加者が揃う。挨拶と説明の後、A 班 B 班に分かれて見学をスタート。少し遅れてきた方数名も内部で合流でき、まずまずの滑り出し。

最初に礼拝堂に着席し、ヴォールト天井とチーク材を壁に装った豊かで神聖な空間を体験し、続いて牧師様から教徒と教会の関わり、阪神大震災で全壊した建物の復興の経緯、関係各者のご苦勞について、旧建物との違いなどをお話いただいた。また、参加者からの質問を受け付けた。参加者にとって、またとない機会となり、多くの質問があった。その後、2 階に以前の教壇、机、椅子を使った小礼拝室を見学した。個人では見学できない場所を見学でき参加者は満足された様子であった。



予定より 10 分程遅れて栄光教会を後にし、山手幹線を北に渡って、竹中大工道具館、北野工房を経て、神戸ムスリムモスク（回教寺院）へ。教会の意向により、内部の撮影は禁止としていることから、道中も熱心にシャッターをおす参加者が多い。

神戸ムスリムモスク（回教寺院）

昭和 10 年竣工。スワガー建築事務所設計。鉄筋コンクリート造 3 階建て塔屋付きのイスラム建築様式。3 基のミナレット（尖塔）とタマネギ型ドームを持ち、ムハンマド（マホメット）の象徴である三日月を掲げるドームを持つ。（日本では神戸と東京の 2 カ所のみ）竹中工務店が施工し、建築費は 10 万円（当時の金額）とのこと。設計図は消失してしまった。

少し震災によるヒビなども見られる外壁は若干痛々しいが、長い年月を感じさせる。靴を脱いで会堂に入る。階段を 4、5 段上がったところに広間があり、西側壁面の中央の凹みに向かって座る。この凹みはメハラブという聖壇であり、メッカの方角を示しているとのこと。お祈りは 1 日に 5 回。私たちが食事やティータイムを楽しむのと同じく、日常生活の一部となっている。

聖壇の上部に「アッラーの他に神はなく、ムハンマドはアッラーの使者である」という言葉がかかっている。



この寺院には中 2 階があり、そこは女性のみ入ることができる。女性の案内係の方から、お祈りの時は男性が前、女性が後ろとなっているが、スペースの関係上、ここでは中 2 階を女性スペースとしていると説明を受ける。これは、男性がお祈りに集中するため、女性が視界に入らないようにするためとのこと。祈りの場所が男女別になっていることや、女性の衣装の色・形が、すべてお祈りに集中するためのものであることを聞き、今まで感じていたイスラム文化に対する疑問が少し解けたようです。外へ出て、ミナレットを見上げながら、イスラム国家の国旗にあるのが三日月だと再認識できたところで、次へ。

神戸ムスリムモスクを出て少し東進し、信号を北上。異人館通りに出たところで左折し、シュウエケ邸を外から見る。この辺りから伝統的建造物保存地区となっており、点在する洋館に歩を止めてはパチリ。撮影に夢中になっている参加者を心配しながら北上して行くと、関西ユダヤ教会に着いた。

シュウエケ邸など、異国情緒豊かな洋風建築を何邸か通り過ぎると、連続アーチが特徴的な真っ白な壁の建物が目に飛び込んできた。

関西ユダヤ教会

昭和 45 年竣工。アメリカ人建築家による設計。鉄筋コンクリート造平屋建て。礼拝場所と食事スペースからなる。

当初、ここは内部見学可否の確認がとれず、外部から眺めるだけの予定であったが、交渉してみたところ、内部を見られることに。中に入るとすぐ食堂となっており、先ほどまで食事をしていたと思われる人が何人かいた。ドレスを着た女の子の歓迎を受け、入って行くと、女性は奥のドアに進むよう指示される。入ると、カーテンがかかった衝立てがあり、その向こうで何やら行われているよう。男性は、入り口を入ってすぐ右側にあるドアから入室し、衝立てではなく直接見ることができる。

ここも礼拝場所は男女別となっていた。



食事スペースは誕生会？か何か行われていたらしく、飾り付けがしてあることから、ただ単に神に祈りを捧げる場所としてだけではなく、友人、知人との親睦を深める場にもなっていることがよくわかった。

ユダヤ教会を後にし、登り坂を道なりに行くとハンター邸門跡がある。そこから坂を下って北野通りに出て、右折。しばらく行ったところにあるのが、パグワンマハピールスワミジェイン寺院。（ジャイナ教寺院）

パグワンマハピールスワミジェイン寺院（ジャイナ教寺院） 1985年6月竣工。

建物が奥まっているのと、その色調から、通りを見渡しても見えない。近くまで行って、その個性的な外観に驚く。階段で順番待ちをする間、何もかも大理石であることにまた驚き、思わず、どのように施工したのだろうと見入る。細部を撮影する参加者もいた。

入り口で靴を脱ぎ、階段を上って右側のドアから中へ入ると、正面に調理場らしき入り口が見える。歩を進めると、右側に長方形の台が見え、振り向くと、マハーヴィーラ像の安置スペースがある。像に向かって床に座り、関係者にお祈りの仕方を聞く。ところが、日本語を話せないため、身振り手振りから何とか解釈した。



すべて大理石仕上げの外観。
内部も床、壁共大理石貼となっている(天井のみ吸音材？使用)
インドでは大理石が手に入りやすかったためであり、華美に飾り立てることを意図したわけではない。

ジャイナ教は、心の平安、他の生物との平和的共存、業の束縛から魂を徐々に解放すること、及魂のより高度な完成を目的とし、そのための5原則、1.不殺生、非暴力 2.真実言、嘘をつかないこと 3.盗みをしないこと 4.貞潔、不道德な行動をやめる 5.執着しないこと、不所持 を説いている。執着心を捨てられない私たちは、カメラを手に次の目的地へ。

バプテスト教会へはまっすぐ向かわず北野通りを西へ向かう。女性の参加者が北野交番を「かわいい！」と写真におさめる。

その北野交番を過ぎて1本目の小径を左折。坂を下って行くと、ここにも赤やピンク、グリーンなどにペイントされた洋風建物が並ぶ。途中、参加者のひとりが「ここはテレビドラマに使われていました」と教えてくれた。

神戸バプテスト教会

昭和27年竣工。小磯良平氏の住居兼アトリエの一部を譲り受け建築。RC壁式構造。東西のサイドルームは木造。アメリカ南部コロニアルスタイルで左右対称が特徴。玄関扉は、当初の木製であるが、窓はアルミサッシになっている。（バプテスト教会の特徴であるアーチ型はそのまま踏襲）

残念なことにこの日は音楽イベントのリハーサル中ということで、内部に入れず、外部からのみの見学となりました。



バプテスト教会を右に見ながら坂を下る。しばらく歩き、一宮神社の手前を左折すると神戸ハリストス正教会がある。教会といっても近隣の住宅と変わらない規模の建物であり、十字架を見てやっと教会と認識できる。

神戸ハリストス正教会

明治6年、神戸へ正教会が伝えられ、大正2年に平野祇園町に会堂が建てられた。1917年のロシア革命の影響で多くのロシア人亡命者が神戸に居住するようになり、信徒数が増えたが、平野の会堂は戦災により消失。(昭和20年)昭和27年、V・モロゾフ氏(コスモポリタンチョコレート)の尽力で、現在の地に「正神女就寝聖堂」が建立された。

内部は、正面中央に“最期の晩餐”、これと向き合う位置(入り口のすぐ上)に十字架にかけられたキリスト像となっている他、多数のイコンが飾られている。



司祭より、正教会についてハリストスの由来などのお話を伺った。
神戸で白人と言えばロシア人を指す程、ロシア人は多かったそうです。

正面上部のXとBの切り文字は、X=キリストス=キリスト、B=ボスクレッセ=復活の意を表し、これは神戸にしかないとのこと。



イコンというキリスト、聖人、聖書に書かれている出来事などを描いた絵画が多数飾られており、参加者は興味深く眺めていた。

カトリック神戸中央教会 平成16年竣工。村上晶子アトリエ設計。鉄骨造2階建て。

神戸市中央区にあった3つのカトリック教会(中山手、下山手、灘)の聖堂が阪神淡路大震災で被災し、この地において神戸中央教会として新たにスタート。広場と社会活動神戸センター併設の地域に開かれた教会を実現。

当初の予定では、教会関係者の説明はなしとなっていたが急遽、牧師にお話をしていただけることになりました。

内部のイスに腰掛け、話を伺う。内陣に向かって床勾配がつけられているため、ほぼ視線の高さに牧師の顔が見える。説教する人を見上げる形になる他の教会とは大きく違う。祭壇が一番低い位置になるという。ステンドグラスから差し込む光は、内陣を照らすように角度が付けられており、この場所が一番明るい場所となる。

牧師によると、この教会のこの場所に来れば、気分が明るくなって帰ることができるとのこと。



最期に、皆さんの気分が明るくなって帰ることができるように、全員で記念撮影。





参加者の皆様から

「こんなにいろいろな教会を一度に見られてよかった」



「神戸にいながら、こんなところがあるなんて知らなかった」

「またこういったイベントをするなら教えてほしい」というご意見をいただいた。

半日で歩ける範囲内で、イスラム教、ユダヤ教、ジャイナ教、正教、カトリックの宗教建築物が、歴史建造物に現代建築、復興建築というさまざまな表情で見ることができる北野異人館街を堪能していただけたようでした。

事業報告シート							
事業分野	もの・まち・くらし・その他			作成日	平成23年5月10日		
事業名称	神戸支部総会 特別講演会						
開催日時	平成23年4月23日(土) 14:30~16:30			開催場所	兵庫県立美術館		
ふりがな	(しゃ)ひょうごけんけんちくしかい こうべしぶ せいねんぶかい						
活動団体名	(社)兵庫県建築士会 神戸支部 青年部会						
事業の目的	広く参加者を募ることにより、建築士会の活動を多くの方へ知っていただく場面としたい。講師については、TV、雑誌媒体での露出も多く、若い層での支持が高い建築家であり、学生の集客にも充分期待が出来る。また、兵庫県立美術館のホールをお借りすることでの建築物的集客力と参加者の空間による心の高揚にも期待を込めた構成としている。						
主な事業内容	講師に建築家 中村拓志氏を招いてのテーマ「コミュニケーションデザインと建築」による特別講演会 総会後の特別講演会の企画・運営						
事業収支	収入	¥207,185	支部補助	¥207,185	参加費(無料)	¥0	
			講師謝礼	¥100,000	講師手土産	¥5,890	看板費 ¥11,550
	支出	¥207,185	ポスター費	¥71,105	広報交通費	¥10,460	その他 ¥8,180
	差引	¥0(備考) 当初事業予算 ¥350,000-					
参加者	内訳	青年会員	一般会員	会員外		その他	合計
	人数	8	58	92		0	158
建築士の関り	著名な建築家の選出から始まり、事務所へのオファー、回答を得るまでの過程を通じ、他の事務所の対応や建築家との関わり方等、日々行う業務に於いても、学ぶべき要素が多い機会と考え、この事業を行ってきました。						
今後の検討課題	①学生、一般の方への広報方法 ②会員拡大、現会員の方の今後の活動参加拡大への広報活動。 ③集客の望める建築家の選定方法 ④集客力アップの為、多くのファブリシティーの確保						
連携・協力組織等	NAP建築設計事務所						
<div></div>							
事業担当(計画)者	佐伯 亮太(青年部会)			事業責任者	佐々木 康行(青年部会長)		

事業報告シート						
事業分野	もの・まち・くらし・その他			作成日	平成23年8月8日	
事業名称	「夏休み！子供といっしょにカプラを作ろう！」 【50周年記念事業】					
開催日時	平成23年8月7日（日） 13：00～17：00			開催場所	神戸市葺合文化センター 工芸室	
ふりがな	(しゃ)ひょうごけんけんちくしかい こうべしぶ せいねんぶかい					
活動団体名	(社)兵庫県建築士会 神戸支部 青年部会					
目的	子供に木(合板)の性質、切り方、削り方を学んでもらう。 親子で協力して工作してもらうことで、夏休みの楽しい思い出の1つとしてもらう。					
事業内容	カプラとは？ 1：3：15の比率の積み木。「魔法の板」という意味がある。 ・9mm厚の合板を用意(市販品は8x24x120mm)。今回は(9x27x135mm)と若干大きいサイズで考えている。・事前に27mm巾にカットしておく ・当日135mm間隔にカットする作業及びヤスリがけを行ってもらう ・完成品を持ち帰りしてもらう ・子供たちは出来上がったカプラで(途中からは)遊んでもらう。					
事業収支(実行)	収入 35,072 支部補助:25,572、参加費:会員1,000円×5組、会員外1,500円×3組 支出 35,072 講師謝礼(2人)+工具:10,000、会場費・材料代・保険代・雑費25,072 計 ±0					
参加者	内訳	青年会員	一般会員	会員外	その他	合計
	人数	5	0	3	17	25
検討課題の実行状況	①電動ノコギリを使用した、2名がきっちりと工具についてもらい事故もなく安全であった。 ②当日、1組当たり、約100枚のカプラを作ってもらえた。 ③既製品と比べれば精度は甘い、十分実用に耐えるものができた。 ④協力していただく大工さんにはボランティア精神で実費のみ程度でしていただいた。					
連携・協力組織等						
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>						
事業担当(計画)者	湖亀 一登 (青年部会)			事業責任者	佐々木 康行 (青年部会長)	

事業報告シート						
事業分野	もの・まち・くらし・その他			作成日	平成24年3月20日	
事業名称	建築セミナー					
開催日時	平成24年2月25日（土）			開催場所	名古屋	
ふりがな	(しゃ) ひょうごけんけんちくしかい こうべしぶ せいねんぶかい					
活動団体名	(社) 兵庫県建築士会 神戸支部 青年部会					
事業の目的	建築物（地域）の見学を通じて、建築士としての意識向上、会員交流をはかる。					
事業内容	<p>名古屋近辺の施設を見学をする。</p> <p>・INAXライブミュージアム（世界のタイル博物館、釜のある広場、資料館、陶楽工房など五つの建物からなる総合ミュージアム）で 建築に欠かせない、土やタイル、陶器などの歴史や展示品を見て、触れて、感じて 学習してもらいます。震災後特にエコ、リサイクル商品に関心が寄せられています。その中でも、土、タイルは優れた商品であることを、再度認識する。</p> <p>・江戸時代から明治、大正、昭和にわたる、印象深い建物が残されている、文化の道を散策しながらそれぞれの時代の背景や、その時代の人々の生活、習慣を感じ取ってもらい、これからの建築物に生かしてもらえよう、見学してもらいます。</p>					
事業予算収支	収入	¥217,355 支部補助 (120,855) 参加費 (96,500 会員¥5,000 X 18 会員外¥6,500 X 1)				
	支出	¥217,355 調査費 (15,760) 交通費 (116,530) 保険 (1,855) DM、印刷代 (21,540) 飲食代 (45,590) 入場料 (16,080)				
	計	±0 (備考)				
参加者	内訳	青年会員	一般会員	会員外		その他
	人数	4	14	1		0
建築士の関り	建築に欠かせない 土から出来た製品の歴史や作る行程を、見て触れて体感するのは、それらを使って建物を作る建築士には、必要と思います。また、明治、大正、昭和の近代建築物を実際に見学しておくのは、これからの建築物を作っていく建築士には必要なことと、考えます。					
検討課題	遠方のため、移動時間に時間をとられ、十分な見学時間がとれなかった。 また、長時間のバス移動や、朝早い出発、夜遅い到着の計画が敬遠されたのか、人数があつまらなかった。今後や、予算のことも考えられると、近場で、多くの方に参加してもらえる、事業を計画する必要があると思われる。					
連携・協力組織等						
						
事業担当(計画)者	野口・佐々木（青年部会）		事業責任者	佐々木 康行（青年部会長）		

事業報告シート						
事業分野	もの・まち・くらし・その他			作成日	2012年3月14日（水）	
事業名称	住まいのグリーンエクステリアを学ぼう					
開催日時	平成24年3月13日（火）19：00～21：00			開催場所	神戸支部 事務所	
ふりがな	(しゃ)ひょうごけんけんちくしかい こうべしぶ せいねんぶかい					
活動団体名	(社)兵庫県建築士会 神戸支部 青年部会					
事業の目的	「グリーンエクステリアの基礎を学び、誇れる街、神戸を我々の手でつくろう。」 一昔前にはクリスマスツリーが何処の庭先にも見受けられた。しかし、手に負えないほど大きく成長性し、昨今では決まったように株立ちの「シマトネリコ」が植わっている。後、数年すれば、いつかのクリスマスツリーのような運命をたどるのであるだろうか？何故だろう？それは建築をする側の植栽に対する意識の低さと知識の無さが招いた産物なのではないだろうか？今こそ学び、誇れる神戸の街並み復活させよう。					
主な事業内容	庭と建物をそれぞれ引き立て合う庭づくりのポイントを解説 実際の庭づくりを多数手掛け、昨今ではエクステリアの指導、コンサルティング業務にも携わっておられる藤山 宏氏を講師としてお招きし、建築のスタイルに合わせた植栽を学ぶセミナーであった。植物の特徴を学び、日々の生活において木々を見るという意識を持てば自然と覚える事ができるとの講義であった。					
事業予算収支	収入 27,696 支部補助:5,696、参加費:会員1,000*16 会員外2,000*3 支出 27,696 講師謝礼:25,000 カイロ:356 お茶:2,340 計 ±0					
参加者	内訳	青年会員	一般会員	会員外	その他	合計
	人数	8人	8人	3	0	19人/15人(目標)
建築士の関り	設計時での植栽計画の重要性を感じた。今後の業務においてスタイルに合わせた樹種選定を強く意識させられた。					
検討課題	今後も同様のセミナーを継続して行う事を検討する。会費に付いて再度議論し検討する必要があると思いました。					
連携・協力組織等						
<div></div>						
事業担当(報告)者	荒川・小笠原（青年部会）			事業責任者	佐々木 康行(青年部会長)	

耐震診断特別委員会

東日本大震災から1年、阪神・淡路大震災から17年が経ちました。東京では直下型地震が起こるといわれ、関西でも東海・東南海・南海の3連動の大地震が起こるとも言われています。備えあれば憂いなしと言いますが、残念ながら東日本大震災の惨状をみると100%の準備というのは、不可能だと実感します。ただ被害を少なくすることは可能です。特に人命を守ることは何よりも最優先します。人を守るべき建物、特に住宅は家族を自然の環境から守る使命があります。建物の被害は大きくとも、人の命を守ればよいと思います。そのためには、出来る範囲で耐震性を増していくことが重要だと思われます。

昨年あのような惨事があったにもかかわらず、耐震診断件数はかなり落ち込んでいます。耐震化率が向上した結果であれば問題ありませんが、まだまだ補強はもちろん診断すら出来ていないものが多く残っています。新年度も神戸市の委託を受け、耐震診断に協力していくつもりですので、ご協力をよろしくお願いします。(田中)

耐震診断実績

平成21年度 108件

平成22年度 84件

平成23年度 55件



編集後記

(社)兵庫県建築士会の神戸支部は50周年を迎えました。

この記念すべき年に発行する「ばねる」の表紙には、「神戸を象徴する建築物」をと考えていました。

ポートタワーも着工から50年が経過し、我々神戸支部とは言わば同級生です。

あらためてポートタワーのすぐ近くに立ち、見上げてみると、青い空にデザインされた鮮やかな 環が浮かび上がりました。

50周年のメインテーマは「わ」です。

神戸・建築・50年・「わ」 全ての要素をこの建築物は満たしてくれていました。

ポートタワーが神戸市民に愛され、力強く、そして「わ」をもって空高く建っている様はとても誇らしげです。

我々もこうありたいと願います。

いつまでもそばにあってほしいと思い、そして時々近くから見上げてみようかなと思いました。

(松村哲也)

